

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十二月度 入選句（投稿総数二千四百五十三句・一般投句数七百三十句）

特選

選者 名和 永山

若水の柄杓に添える手のぬくみ

各務原市

溝口 広美

「若水」は元日の朝にはじめて汲む水をいう。一年の邪気を除くと言われている。元日の朝の寒さ。そして、水の冷たさ。そうした中で、初参りをする前に清める水の冷たさより、新しい年に希望を持ち、豊かに過ごしたいという思いが「手のぬくみ」によつて伝えられる。

ラガー身を伸ばし切つたるゴールかな

岐阜市

堀江 美州

「ラガー」とは、ラグビー選手のこと。季語は「ラグビー」で冬。新年には、日本選手権も開催されている。この句のよさは、ゴールの瞬間を捉えた「身を伸ばし切つたる」の表現が、うまく写真されている。また、ゴール前の混戦から、ラインにタッチするかもしれないかの接戦の様子が「身を伸ばす」というこの表現によつて良く表されている。

冬耕の手休め送る葬の列

愛知県尾張旭市

古賀 勇理央

冬の寒い中での農作業。この時期は、何故か他界する人が多い感じがする。実際にはそうでもないのかも知れないが、冬の寂しさ、回りには余り人のいない冬の農作業の侘びしさが、この情景を印象づける。田舎では、葬儀の長い列をつくり、墓場まで多くの人が見送り、火葬や土葬にするのだが、現在では葬儀場へ車で運ばれる。作者は、作業の手を休め、亡き人を心から見送つたのであろう。

秀逸

寒冷や朝の洗顔さぼり気味

大垣市

小薮 範雄

深呼吸見上げし先の初伊吹

瑞穂市

辻 貴仁

寒鴉塑像のごとく動かざる

愛知県名古屋市

舘野 茂子

綿虫の飛べる重さを負ひにけり

大垣市

樋口 絹子

古書店の主小春のはたき掛け

大垣市

秋山 くに子

秋刀魚焼く匂いがグリル飛び出した

揖斐郡揖斐川町

杉山 美香

着膨れて心の隙間見せぬふり

福井県福井市

三ツ山 しげ子

おでん屋の常連客の名も知らず

大垣市

傍島 隆

地球の灯よりも鋭く冬銀河

岐阜市

後藤 衣錦

あやまちは人間だもの冬薔薇

養老郡養老町

田中 紫香

入選

黄落や盛衰ひむる古城址 大垣市 棚橋みさを  
 普段着の笑顔とびきり七五三 大垣市 永井田鶴子  
 黄落や風の行方は十方に 岐阜市 宮西美代子  
 なみなみと枘にふくれし今年酒 大垣市 伊藤英司  
 懸大根に燃え上りたる夕日かな 大垣市 村田通夫  
 似顔絵師あづける笑顔冬日抱く 大垣市 中山あや子  
 母の顔苦勞の皺に初日さす 大垣市 水谷勲一  
 幸せを逃さぬための目貼りかな 福井県福井市 三ツ山ひろし  
 着ぶくれし夫押す吾も着ぶくれて 養老郡養老町 田中秀子  
 古き床軋ませ舞ひぬ里神樂 大垣市 早崎美弥子

入選

晩秋の空に流れる雲 早し 三重県桑名市 宮田一  
 火に願ひ天までとどけ大どんど 大垣市 大橋正敏  
 厚き雲冬夕焼けをも呑み込めり 岐阜市 小湊順子  
 一村を沈めて黙す冬のダム 不破郡垂井町 江崎真一  
 振袖の模様を浮かす初茜 大垣市 平野きぬよ  
 退院の手を引く父に冬帽子 大垣市 片山洋紅  
 語部に桜椿燃ゆ波郷の忌 大垣市 大西誠一  
 ストーブの前に居座る親爺かな 大垣市 谷彩虹  
 身の丈を知りて励まん去年来年 大垣市 川瀬幸子  
 諍いもおでん囲みて仲直り 大垣市 大橋正敏

選者吟

向きあへば真面目な顔や寒鴉

永山